

【生命環境学部】中期計画総括シート

提出日: 2023年1月24日

責任者	生命環境学部長	担当部局	生命環境学部
-----	---------	------	--------

1 生命環境学部の理念、目的、各種方針

生命環境学部の理念	変更の有無
建学の精神であるキリスト教主義を基盤に、自然科学の基本原則と生命科学分野、環境化学分野について教育と研究を行い、持続可能な再生・共生型社会の構築に貢献する。	有・ <input checked="" type="radio"/>
生命環境学部の目的	変更の有無
<p>生命や環境問題に高い関心を持ち、生命現象や地球環境のしくみを数学的、化学的、生物的視点で読み解き、応用する技術を開発することにより、その成果を社会に還元する人材を養成する。自然科学の基礎知識と生物学分野、基礎医学分野、環境化学分野の専門知識を修得し、関連した科学技術の発展に資する課題解決力と高い倫理観、及びグローバル化に対応できる能力を備えた人材を養成することで、社会への貢献を目指す。</p> <p>【生物科学科】 生物学、数理科学、化学を基盤とした生物機能の活用、及び生物科学関連のデータサイエンスに関する研究、教育を通じてグローバルに活躍できる人材の育成を目指す。生態系や生命現象のデータを数理解析する能力、さらには生物機能を分子レベルで解析し、応用する能力をもった人材を養成する。</p> <p>【生命医科学科】 生物学、数学、物理、化学を基盤とした生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備えた人材の育成を目指す。さらに、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野と医学系情報学分野で国際的に活躍し、ライフイノベーションに資する人材を養成する。</p> <p>【環境応用化学科】 地球環境問題に関連するさまざまな課題に対して化学を基軸とした応用化学的アプローチによって柔軟に取り組み、国際的に活躍できる個性豊かな人材の育成を目指す。具体的には、原子・分子の世界から地球レベルの問題まで幅広い知識と深い専門性を有し、多角的な視点を身につけることによって、環境応用化学分野に深い関心を抱き、新しい課題に挑戦する情熱と知恵を持った人材の養成を図る。</p>	有・ <input checked="" type="radio"/>
学位授与方針(DP)	変更の有無
<p>関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「Mastery for Service」を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、全ての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、この獲得を念頭において、生命環境学部の理念の下、生命環境学部各学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を以下のとおり定める。</p> <p>【生物科学科】 生物科学科は、生物学、数理科学、化学を基盤とし、生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力を備えた人材、また、新産業分野として創出が加速される生物科学関連のデータサイエンス産業に対応できる専門性の高い人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士(理学)」の学位を授与する。</p> <p>1.[関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。</p> <p>2.[知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 (2) 生物学、数理科学、化学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 (3) 生命科学分野における基礎的な技能を修得している。 (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。</p> <p>3.[技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 (1) 生命科学関連のデータサイエンス産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命科学の研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。 (2) 生物機能を分子レベルで理解し、その理解に基づいて応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。 (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。</p> <p>4.[思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 (2) 生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。</p> <p>【生命医科学科】 生命医科学科は、数学、物理学、化学等を基盤として生命科学を修得し、生命に対する健全な倫理観と専門知識をもって、基礎医学・薬学・医工学分野に応用できるように基礎医学系分野と医学系情報学分野の研究を推進することができる人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士(生命医科学)」の学位を授与する。</p> <p>1.[関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。</p> <p>2.[知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 (2) 生物学、物理化学、数理科学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 (3) 生命医科学分野における基礎的な技能を修得している。 (4) 基礎知識や基礎的な技能を基礎医学・薬学・医工学分野に応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。</p>	有・ <input checked="" type="radio"/>

<p>(5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。</p> <p>3.[技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力 (1) ヒトの健康に関わる医学、薬学、医工学系産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命医科学研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。 (2) 生命現象を分子レベルで理解し、その知識を応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。 (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。</p> <p>4.[思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力 (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 (2) 基礎医学的な視点から、ライフイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。</p> <p>【環境応用化学科】 環境低負荷型の持続可能な社会の実現のために、地球環境にやさしい合成法や機能性材料の開発に関する知識や技術を身につけ、化学的な視点からグリーンイノベーションに資する人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士(工学)」の学位を授与する。</p> <p>1.[関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 (1) 自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。</p> <p>2.[知識・理解]幅広い知識と深い専門性 (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 (2) 環境応用化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 (3) 環境応用化学分野における基礎的な技能を修得している。 (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。</p> <p>3.[技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力 (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。 (2) ミクロな視点、マクロな視点の両面から地球環境問題に取り組む能力を身につけている。 (3) 日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。</p> <p>4.[思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力 (1) 現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 (2) 化学的な視点からグリーンイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。</p>	
---	--

<p>教育課程の編成・実施方針(CP)</p>	<p>変更の有無</p>
-------------------------	--------------

<p>各学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、各学科の教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように定める。</p> <p>[総合教育科目](3学科共通) 「キリスト教科目」 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。</p> <p>「英語教育科目」 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。</p> <p>「総合選択科目」 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。</p> <p>【生物科学科】 本学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、学士(理学)を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。</p> <p>[専門教育科目]</p> <p>「必修科目」 生物科学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次～4年次に体系的に配当し修得させる。</p> <p>「基礎科目」 1年次に配当し、生物科学分野に共通する基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。</p> <p>「専門Ⅰ群科目」 主に2年次に配当し、生物科学分野に共通する発展的な知識を、講義等を通じて修得させる。</p> <p>「専門Ⅱ群科目」 3年次に配当し、植物昆虫科学分野、応用微生物学分野及び計算生物学分野に要求される基礎的な知識や技能、またそれらを応用するための能力を、講義を通じて修得させる。</p> <p>「専門選択科目」 専門的な視野を広げるため、主に生物科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。</p> <p>生命環境学部生物科学科 カリキュラム・マップ(概要) (ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ディプロマ・ポリシーの項目</th> <th colspan="2">1</th> <th colspan="5">2</th> <th colspan="3">3</th> <th colspan="2">4</th> </tr> <tr> <th>(1)</th> <th>(2)</th> <th>(1)</th> <th>(2)</th> <th>(3)</th> <th>(4)</th> <th>(5)</th> <th>(1)</th> <th>(2)</th> <th>(3)</th> <th>(1)</th> <th>(2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合教育科目</td> <td>キリスト教科目</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>英語教育科目</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総合選択科目</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	ディプロマ・ポリシーの項目	1		2					3			4		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	総合教育科目	キリスト教科目	○												英語教育科目									○				総合選択科目			○										専門教育科目		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	<p>有・無</p>
ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3			4																																																																				
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)																																																																				
総合教育科目	キリスト教科目	○																																																																														
	英語教育科目									○																																																																						
	総合選択科目			○																																																																												
専門教育科目		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○																																																																			

基礎科目					○	○							
専門Ⅰ群科目							○	○	○	○			
専門Ⅱ群科目							○	○	○	○			
専門選択科目			○								○		○

【生命医科学科】

本学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、学士(生命医科学)を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

[専門教育科目]

「必修科目」

生命医科学科の学びの基盤となる科目、生命医科学科の学生全員が身につけるべき知識と技能を修得するための科目を1年次～3年次に体系的に配当する。

「基礎科目」

主に1年次に配当し、生物学、数学、物理学、化学等の生命医科学科に共通する基礎的な知識を講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅰ群科目」

主に2年次に配当し、生命医科学分野の基礎的な知識や技能を講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅱ群科目」

3年次及び4年次に配当し、生命医科学分野の高度な専門知識や技能、それらに応用するための能力を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

専門的な視野を広げるために、生命医科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を講義等を通じて修得させる。

生命環境学部生命医科学科 カリキュラム・マップ (概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3			4	
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
総合教育科目	キリスト教科目	○											
	英語教育科目										○		
	総合選択科目			○									
専門教育科目	必修科目				○	○							
	基礎科目				○	○							
	専門Ⅰ群科目						○	○		○			
	専門Ⅱ群科目		○				○	○	○	○	○	○	○

【環境応用化学科】

本学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、学士(工学)を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。

[専門教育科目]

「必修科目」

環境応用化学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を1年次～4年次に体系的に配当し修得させる。

「基礎科目(数学・物理系)」

1年次、2年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる数学・物理系の基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。

「基礎科目(地学・生命・情報系)」

1年次、2年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる地学、生命科学、情報科学の基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。

「専門Ⅰ群科目」

2年次に配当し、各領域における基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。

「専門Ⅱ群科目」

主に3年次に配当し、各領域における基礎的な知識や基礎的な技能を応用するための知識を、講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」

専門的な視野を広げるため、主に環境応用化学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。

生命環境学部環境応用化学科 カリキュラム・マップ (概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3			4	
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
総合教育科目	キリスト教科目	○											
	英語教育科目										○		
	総合選択科目			○									
専門教育科目	必修科目		○		○	○		○	○	○	○	○	○
	基礎科目(数学・物理系)				○	○							
	基礎科目(地学・生命・情報系)				○	○							
	専門Ⅰ群科目						○	○		○			
	専門Ⅱ群科目						○	○		○			
	専門選択科目			○							○		○

学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
<p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多角的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、各学科の学生受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を次のように定める。学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、各学科の学生受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を次のように定める。</p> <p>【生物科学科】 生物科学科は、生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけ、高い倫理観をもってグローバルに活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、生物科学ばかりでなく、数学、物理学、化学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。以上の人材養成の目的に沿って、生物科学科では以下のような学生を求める。</p> <p>① 生物科学科の各専攻分野と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、各専攻分野の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする学生 ② 生物学に加え、数学、物理学、化学の体系的・構造的な理解に基づき、各専攻についての知識や技能を多角的な視点をもって修得しようとする学生 ③ 自然科学に関する基礎知識や技能、また日本語及び英語の基礎学力を基に、コミュニケーション能力、論理的思考力、情報収集力、表現力の向上に努める学生 ④ 各専攻分野において現代社会における課題を見出し、健全な倫理観をもって課題を解決する能力を身につけようとする学生</p> <p>【生命医科学科】 生命医科学科は、生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備え、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野で活躍し、ライフイノベーションに資する人材を育成することを使命としている。生命科学を基礎医学系分野に応用するためには、まず生命科学の知識を確実に修得した上で基礎医学系分野の知識も兼ね備えている必要がある。生命科学の確実な知識を修得するためには、その基礎となる数学や物理学、化学をはじめとする基礎科目の知識を身につけている必要がある。また、医工学や医学系情報学分野の知識も養い、実験系分野で得られた成果を基礎医学系分野に効率的に応用できる人材の養成をめざす。さらに、ヒトの健康維持や疾病の治療に関わる分野で活躍する人材は、生命に関する健全な倫理観をもっている必要がある。以上の人材養成の目的に沿って、生命医科学科では以下のような学生を求める。</p> <p>① 生命科学を生命医科学科の各専攻分野に応用し、ヒトの健康の維持や疾病の治療等、ライフイノベーションに貢献しようとする学生 ② 数学や物理学、化学等、基礎科目も含め、生命科学及び各専攻分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点と生命に関する健全な倫理観を意欲的に身につけようとする学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生</p> <p>【環境応用化学科】 環境応用化学科は、地球環境問題に関連する多様な課題に化学的な視点から柔軟に取組み、国際的に活躍できる人材を養成することを使命としている。そのため、自然科学の基礎を身につけて知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性を修得できる教育研究の実践が必要である。特に、原子・分子レベルから地球スケールまでの広範な対象を取扱う環境応用化学分野の理解には、化学ばかりでなく数学、物理学、地学等の基礎知識の修得も必要となる。以上の人材養成の目的に沿って、環境応用化学科では以下のような学生を求める。</p> <p>① 物質と人間生活や地球環境との関わりに幅広い関心を抱き、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献しようとする学生 ② 自然科学の基礎学力を十分に有し、地球環境化学・応用化学分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 修得した専門的知識・技能を応用に発展させる柔軟な思考力と知識を養い、新しい課題に取り組むことのできる能力と、成果を発信するコミュニケーション能力の修得に努めようとする学生 ④ 科学技術と地球環境との調和を重視した高い倫理観をもった学生</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー</p> <p>1. 一般選抜入学試験</p> <p>一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。</p> <p>全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部・法学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育学コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。</p> <p>理系入学試験においては全学部日程を2日間実施、入試制度も2種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。一般入学試験共通テスト併用／英数日程は、英語・数学科型、共通テスト併用型・英語、共通テスト併用型・数学の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用型・英語、共通テスト併用型・数学は、関西学院大学の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。</p> <p>1 月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施します。また「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」を必須とする7科目型を実施します。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、大学入学共通テストを利用する入学試験(1月出願 英語資格・検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p> <p>2. グローバル入学試験</p> <p>グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)に積極的に取り組むこと</p>	有・無

を希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験

国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有した上で、国際交流体験による異文化社会における経験、もしくは国際的課題に関して興味をもち、課題解決のための提案・実践に意欲を有する者を対象とした入学試験です。

出願資格として、英語資格・検定試験において CEFR B1 程度以上を有した上で、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、全国レベルの英語弁論大会・英語エッセイコンテスト等において入賞実績を有する生徒を対象に設定し、調査書等の提出書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行います。さらに、英語を題材とした論述試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接(口頭試問含む)により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。

出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCORE が出願時に32ポイント以上である者は英語論述審査が免除となります。また日本的一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接(口頭試問含む)により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接(口頭試問含む)により学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

④ 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正當に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉学してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接(口頭試問含む)において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2) 関西学院千里国際高等部 関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 系属校推薦入学

関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。

関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2) グローバル校

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価し

ます。

3) グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、个性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接(口頭試問含む)によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接(口頭試問含む)において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

生命環境学部

関西学院大学生命環境学部を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。

審査では、出願時提出書類、面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 指定校推薦編入学

関西学院大学指定校推薦編入学制度では、指定校学校長の責任に基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等の能力や資質を有すると判断され推薦された学生を、各学部が書類審査・面接等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

生命環境学部

指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接(口頭試問含む)によって生命環境学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 探究評価型入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。その使命を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求め、本入学試験を実施します。

本入学試験では、本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた生徒を求めています。

第一次審査においては書類審査を行います。横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して培った力を提出書類にて多面的、多元的に評価します。

さらに第二次審査において、学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。

高等学校での学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

出願資格として、英語資格・検定試験スコア CEFR A2 レベル以上を有する者と設定しています。

6. UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連 UNHCR 協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々には、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連 UNHCR 協会の推薦に基づき、面接(口頭試問含む)を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

7. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。

提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接(口頭試問含む)を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

8. 外国人留学生入学試験

本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバースによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。

この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。

出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査(口頭試問を含む)・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

9. 学部特色入学試験

関西学院のスクールモットーは“Mastery for Service”。これは、第4代院長 C. J. L. ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求め、本入学試験を実施します。

特に、本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、各学部が求める多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。

生命環境学部

本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の理念のもと、自然科学の基礎をしっかりと学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象に学部特色入試を実施します。

関西学院大学理学系学部の目標のひとつである「より良い社会の実現」のための一大研究拠点の構成員として、学部の理念に賛同し、ここで学ぶ意欲を強く持つ学生を求めます。

学部特色入試とは、高等学校までに学んだ基礎的な知識、技能、思考力を備え、それに加えて「学びに向かう力・人間性」を持った学生を評価する入試です。また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査(面接(口頭試問含む))は、「思考力・判断力・表現力」を確認するとともに、学問領域を探究していこうとする力や意欲を総合的に評価します。

教員組織の編制方針	変更の有無
<p>生き生きとした魅力ある学部として、教育・研究の活力を保ち、持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編成方針を次の通り定めている。</p> <p>①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。</p> <p>②女性教員を積極的に採用し、各学科の専任教員として少なくとも1名の女性教員が在籍するようにする。</p> <p>③任期制教員枠を利用して、若手教員を積極的に採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。</p> <p>④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各学科の特色を出すように配慮する。</p> <p>⑤英語教育充実のため、ネイティブ教員を積極的に採用するとともに、教員間の連携体制を整備する。</p> <p>⑥体験的教育の充実を図るため、実験や演習を補佐する教職員等を各学科に配置する。</p>	<p>有・<input checked="" type="radio"/></p>